



洋画家 岡崎 洋児氏作 昭和16年生 珠洲市狼煙町

「東京奥能登応援団のホームページ」アドレスは <http://okunoto.net> です。

1/21

アイデンティティ 21

門松に因み

〜等伯の松林、それは能登の原風景

能登国七尾に生を享け一介の地方絵師が元龜2年(1571)33歳の頃に上洛し、都の中央画壇の中枢的な存在に上りつめた長谷川等伯(1539〜1610)を語りた

その頃は信長や秀吉らの権力者の支持を得て狩野派が堅固な流派を築き永徳を当主として画壇に揺るぎない体制を誇り君臨していた。この狩野派全盛の時代に僅か一代で桃山画壇に確かな足跡を遺した等伯の芸術に幾度となく魅せられたのである。

ここでは等伯の二つの傑作・日本美術史上に輝く比類なき国宝着色画「智積院障壁画(楓図壁貼付)」と国宝水墨画「松林図屏風」(東京国立博物館蔵)について取り上げよう。

前画は、壮麗な桃山障壁画を基に多種の草花を慈しむように画き夢想的で叙情性豊かな画趣となっていて見惚れて時間を忘れてしまふ。

注目の後画は、墨の微妙な階調を工夫し松林の奥行きや霧・霞が松を包み込み光や大気が見事な情趣となっている。筆致は荒々しく豪快で日本独特の感性に通底し才気に満ちた等伯の新生画を証している。作家安部竜太郎の『等伯』によれば、「七尾の海には一面に気風が立ち上り、寒風に吹きさらされた浜辺の松は、遠さかるに連れて気風の中に消えていく。…と等伯少年の生活体験がモチーフになっている」と記している。

私はのと里山海道を通る度に烈風に耐えた美形の松に吹く風、波形の海鳴りを耳にして、「松林図屏風」の世界と重ね合わせるのである。

(押上武文〈府中市・宝立町出身〉)

松林図屏風



(右隻)



(左隻)

年頭あいさつ

珠洲市長 泉谷満寿裕



新年明けましておめでとございます。

東京奥能登応援団の皆様におかれましては、輝かしい平成26年の初春をお迎えのこととお慶び申し上げます。また、日頃から「ふるさと奥能登」にご支援、ご協力を賜り、心より感謝申し上げます。

さて、珠洲市ではこれまで、本市の強みである「食」を中心に交流人口の拡大と農林水産業の振興を組み合わせて活性化を図ってまいりましたが、昨年3月末に能登有料道路が「のと里山海道」として全線無料化されたことが追い風となり、本市への入り込みが増加いたしております。また、世界農業遺産の保全や活用も含め、本市そのもののブランド化を図る取り組みの原動力でもある大学との連携による人材育成事業も、金沢大学が文部科学省から採択を受けた「地(知)の拠点整備事業」によ

って、これまでの「能登里山里海マイスター育成プログラム」と合わせ、今後、さらに充実させることができると確信いたしております。

今年は、木ノ浦の観光交流拠点施設がオープンいたしますし、北陸新幹線金沢開業も間近に迫ってまいります。

珠洲市の未来を切り拓くために、本市の強みや特性を活かした活性化を図る取り組みを進めるとともに、教育・子育て環境や医療・福祉の充実、社会資本の整備、防災力の向上に向けた取り組みを進め、本市の「質」を高めてまいりたいと考えております。

本年も、生き活きと安心して暮らせる活力ある珠洲市を目指し、より市民の皆様が幸せを感じられるよう全力で取り組んでまいります。

東京奥能登応援団の皆様には、今後ともふるさとに変わらぬご支援、ご協力をお願い申し上げますとともに、東京奥能登応援団の益々のご発展と、会員の皆様のご活躍を心よりご祈念申し上げます、年頭のご挨拶いたします。

奥能登の風景

中道文子(中道謙一氏(三崎町出身)ご家族)

奥能登と聞くと、輪島の朝市や千枚田を連想する人も多いのではないのでしょうか?実は奥能登は、私の夫の故郷なのです。夫が定年を迎え、私も夫の故郷石川県珠洲市まで、車で帰ることが多くなりました。今では能登空港ができ、羽田から2時間ほどで行けるようになり、成り立ち、でも私は、途中の景色を楽しみながらゆっくりと十時間ほどかけて帰るのが好きです。今年の春は田植えの手伝いをしたり、またセンマイやワラビの山菜を裏山に採りに行ったり、秋には稲刈りの手伝いをしながら自然を満喫してきました。

ここで今世界が注目している「能登の里山里海」について語ってみようと思います。能登は、佐渡と共に日本で初めて「世界農業遺産」に認定されました。地域の環境を生かした伝統的農法や土地利用のシステム、および農村文化や景観が一体となり維持されている地域を後世に残すことを目的に、国連食糧農業機関が開始したプロジェクトです。田植えをしていると、白鷺やセイタカシギが頭の上から舞い降りてきます。この美しい風景をぜひ守ってほしいものだと願わずにはいられませんでした。

そうそう、忘れていました。私達夫婦は、里山里海学校の会員にもなっています。今は子どもたちが少なくなり、廃校となった校舎を金沢大学の先生達と地域の人達が手をつなぎ自然を守っています。その人達は、休耕田となった田圃を利用して、絶滅危惧種に指定され、捕獲が禁止されているとても希少なゲンゴロウやトンボや蝶などに自然の環境を提供して、絶滅生物の生息を助ける事業をしています。

また、能登にはキリコ祭りが有ります。半世紀ぶりのキリコ祭りに主人は有頂天になり、太鼓を叩いたり、笛を吹いたり、山車を引いたり、倒れるのではないかと思われるほどの張り切

り様でした。今では過疎化が進み人口が少なくなってしまうので土地の人達に大歓迎されました。また神様をお招きする家では、ご馳走を用意してお待ちするのです。この日はばかりは誰がご馳走を戴いても良いのです。担ぎ手の衣装は、地域によって異なるのですが、珠洲市粟津の若い人は艶やかです。男性でも若い女性用の着物を着て、派手な帯やしごきを付けて、お相撲さんが土俵入りに使うような前掛けをかけ、鈴をつけて担ぐのです。そして夜にはキリコに灯がともると、とても幻想的な宵祭りの雰囲気になりました。鼻高という祭りを仕切る人に先導され、翌朝の4時頃まで、若いも若きも地域の人達や故郷を離れて都会で生活する人達も皆で飲んだり食べたりしながらほろ酔い気分です。

私にとっては、キリコ祭りの全てが驚きの風景の連続でした。そこには「能登は優しや土までも」と言われるゆえんが解るような気がします。また来年の祭りが楽しみです。(千葉県船橋市内二宮陸会「むつみだより」11月・17号より)



東京珠洲会総会開催される

去る十月二〇日台東区内浅草ビューホテルにおいて、第51回東京珠洲会総会が開催され、珠洲市から上京した泉谷満寿裕市長らを含め104人が参加した。笠原英二会長が「昨年50周年を迎えた伝統の会を更に発展させましよう」と挨拶して開会し、規約の制定、役員を選出を行い体制の整備を図った。珠洲市からは、泉谷市長をはじめ、平蔵豊志県議、藤野裕之珠洲商工会議所副会頭、徳力暁宗玄酒造社長、寺井秀樹市議、松ヶ瀬昌太珠洲市観光交流課長らのほか、石川県から蟹田尚観光戦略部長、松原公慈東京事務所長、石川県人会西髙事務局長らが来賓として出席された。

懇親会では、映画監督石井かほりさんが新作ドキュメンタリー映画「一献の系譜―能登杜氏のいとのみ」の制作抱負と撮影の進捗状況を語り、ササキホコさんがふるさと歌謡「能登の岬で」を披露するなど盛り上がりを見せた。参加者は能登の銘酒や食材を味わいながらふるさと談義に花を咲かせて親交を温めた。



参加者は、いも菓子や地酒のお土産を手に、次回(本年11月8日〈土〉予定)も浅草ビューホテルで再会することを約して散会した。
 (写真は泉谷珠洲市長の挨拶風景)



能登キリコが日本橋中央通りで北陸新幹線開業をPR

勇壮！キリコパレード 日本橋・京橋

北陸新幹線開業の宣伝を目的に昨年十月二七日に開催された日本橋・京橋祭りにキリコ二基(担ぎ手など210人)が参加、日本橋・三越前から京橋・明治屋前までの中央通り二キロを勇壮かつ厳粛にパレードし、沿道の観客から大きな拍手を受けた。パレードは、新幹線開業の横幕を先頭に、天狗、紋付袴の巨那衆、高提灯、和服の女性団体(目白和服で散歩する会)の順で厳かに進行、これに続き、蛸島キリコ、宇出津キリコの二基が連なって勇壮に練り歩き、能登の心意気で新幹線の開業を強力にアピールした。

キリコは、東京で能登の祭りをやるう会、石川県人会の他、能登と交流のある東洋大、早稲田大、法政大などの都内の大学生50人が担ぎ手を担った。また、日本橋には、典座(三崎町)など石川県各市町の食のブースが12店出店、三越本店にはレストラン浜中(上戸町)の能登丼が出店し、盛況であった。石川県は、今年もこの祭りにエントリーし、キリコや郷土芸能などでより盛大なPR事業を行うことになっている。

11月2日、3日東洋大学学園祭「白山祭」で学生が「能登・とり野菜鍋」を出店

能登研修合宿などで交流のある東洋大学国際地域学部高橋・藤井ゼミの学生が、「白山祭」で能登から食材を取り寄せ「とり野菜鍋」を出店した。学生らは、見附島のイラストと能登の背文字が染め抜かれた半纏をまとい、威勢良く寄せを行っていた。鍋はなかなかの出来で、奥深い味わいが好評を博した。

また学園祭には、石川県白山市が初出展し、文京区白山神社と「白山のゆかり」を押し出して観光、物産のPRを行った。
 石川県の観光と交流人口の拡大に「役かった」学園祭となった。草の根的なPR事業として根付くことを願うところである。

東洋大生の千田耀子さん、志保石薫さんは研修結果を、フリーペーパーの「スズノコト」を発刊して成果を発表。



東洋大キャンパス「白山祭」での出店風景
 ~そろいの法被で呼び込み

今年のふるさと行事のご案内

No	月日	場所	行事
1	1月8日(水) ～14日(火)	八木橋百貨店 埼玉	第8回加賀能登物産展
2	1月10日(金) ～19日(日)	東京ドーム	ふるさと祭り東京
3	1月15日(水) 19:00	紀尾井ホール 東京	オーケストラ・アンサンブル金沢 東京公演
4	1月16日(木) ～18日(土)	東京駅	加賀・能登・白山うまいもんフェスタ
5	1月19日(日)	東京ビッグサイト 西4ホール 東京都江東区	JOIN 移住・交流&地域おこしフェア
6	1月26日(日) 14:00	グランドアーク半蔵門 東京	飯田高校同窓会東京支部 拡大幹事会
7	2月7日(金) ～9日(日)	東京ドームシティ・プリズムホール 東京都文京区	いしかわ伝統工芸フェア 2014
8	2月18日(火) ～24日(月)	そごう横浜店 神奈川	(仮称) ちょっと、金沢まで金沢・加賀・能登
9	2月22日(土) ～23日(日)	湯島天神 東京都文京区	湯島天神梅祭り 能登町物産展
10	2月26日(水) ～3月3日(水)	丸広百貨店 川越店 埼玉	第1回いしかわ百万石展～金沢・能登の味と技
11	3月5日(水) ～10日(月)	日本橋三越 東京	いしかわ百万石物語展・石川のこだわり商品フェア
12	3月24日(月)	サントリーホール 東京	オーケストラ・アンサンブル金沢 第30回東京定期公演
13	3月26日(水)	文京シビックホール 東京都文京区	オーケストラ・アンサンブル金沢 東京公演



レストラン浜中、後楽園ドームの丼選手権に出場

本年1月10日から19日まで、後楽園ドームで行われる「ふるさと祭り東京」の全国丼選手権に、レストラン浜中(上戸町)が昨年5位に入賞した「香箱丼」の実績を買われて、シード出場する。回会場では石川県の北陸新幹線開業PRの他、地酒、物産の販売など食のブースも多数出展する。

店主・浜中康男さんは、5年目の挑戦で更に上位を目指し腕によりを掛けており、応援を呼びかけている。

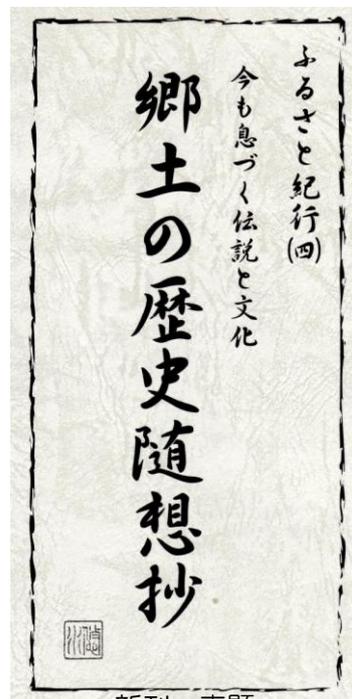
石川県人会・奥能登応援団では、調理・接客応援隊を募り、スタッフが全面支援することになっている。なお、期間中、地元からの応援ツアーの上京に合わせて交流会を予定している。(右表を参照)

お手伝い要員の応募は、石川県人会(03-3556-1414)又は、当応援団(090-8876-4901)まで。

ふるさと紀行」発刊

新保博司氏が、珠洲市三崎、正院に所在する社寺などの由緒、伝説六題を取りまとめて、この程シリーズ四冊目となる郷土の歴史随想抄の労作を発刊しました。

お問い合わせ先 珠洲市正院町川尻二一八-1 新保博司



新刊 表題

編集後記

あけましておめでとうございます。今年一年を占う「初夢」皆様方はいかがでしたでしょうか？

古来より、縁起の良い順に「富士 二鷹 三なすび」と言われていますが、昨年暮れには現代版「宝船」とも思えるようなビッグニュースが飛び込んできました。

日本海上越沖、佐渡島と能登半島間の海底に次世代エネルギー資源「メタンハイドレート」の一部がむき出しとなっているというもので、その埋蔵量は国内の天然ガス消費量の百年分にも相当するといふから驚きです。北陸新幹線の開業を間近に控え、いよいよ風が吹いてきているといった感がありますが、夢を実現するためには自らの行動が必要であるということもかねてよりの真理です。

本年もふるさとの発展に向け着実に歩んでまいりたいと考えております。今年もぜひぜひご一緒をお願いいたします。